

君子蘭の育て方

日本君子蘭協会 家原 悠
2021年3月20日

●君子蘭の自生地とその環境

君子蘭は南アフリカ共和国原産の常緑多年生植物
南アフリカの気候は1年中温暖で霜が降りない
君子蘭は腐葉土が積もった雑木林の中に自生している
直射日光が当たらず、常に地面は湿っている環境

●君子蘭にしてはいけない3つのこと

- ① **直射日光**に当てること
- ② **霜**に当てること
- ③ 生長期である春と秋に鉢の中を完全に**乾燥**させること

●君子蘭の春夏秋冬（関東基準）

春（3，4，5月）

霜の心配のなくなったら、室内に取り込んでいた君子蘭を屋外に出す
置き場所は明るい日陰がよい

暗い室内から明るい屋外に出すので葉焼けに注意

1000倍に薄めた液肥を水やりの代わりに毎週与える。加えて油かす等の有機肥料または、緩効性の化成肥料を与える。

植え替えの適期

夏（6，7，8月）

8月は液肥、置き肥ともに与えない

軟腐病にならないように水やりの回数を減らす、そのとき鉢の中心部までカラカラに乾燥させないようにする。なるべく風通しのよい場所に置く

秋（9，10，11月） 最低気温25℃を下回るようになったら、施肥を再開する

春に準じて水と肥料をたっぷりとする

春に植え替えをしなかったものは秋に植え替え可能

冬（12，1，2月）

霜が降りる前に室内に取り込む。君子蘭における最低気温は5℃。

室内に置く場合はなるべく日光の当たるレースカーテン越しの窓辺がよい。

水やりは花茎が伸びてくるまでは控える。肥料は与えない

※培養土は小さい鉢のものほど乾きやすいので、苗は乾きすぎに注意する

植え替え方法



1. 赤玉土小粒：腐葉土＝5：5でよく混ぜ合わせて培養土をつくる



2. 園芸店で購入後、花が終った君子蘭。



3. 鉢から抜いた様子。根がよく張っている。もとの土はすべて取り除く。このとき枯れた根腐った根はすべて取り除く。



4. 土を落とした後の根の様子。健康な白い根は切らないように注意



5. 一回り大きい新しい鉢を用意する底に網をして培養土を少し入れる。このとき元肥を入れる。
(例：マグァンプK大粒 10g/5号鉢)



6. 根を切らないように丁寧に鉢のなかに入れる。このとき株元と鉢のふちを見て高さを調整する。



7. 株が動かないように株元を押さえながら培養土を入れていく。培養土が中にしっかり入るように意識する。鉢の8分目まで入れる。



8. 最後に表面に赤玉土小粒を入れる
これは化粧砂と培養土の湿り具合をわかりやすくするためである。



9. 植え替え終了後の様子。
植え替えが終わったら、しっかりと鉢底から流れるように水を与える。

詳細動画を Youtube で公開中
『日本君子蘭協会』で検索！